

株式会社日本バイオリサーチセンター

Nihon Bioresearch Inc.

〒501-6251 岐阜県羽島市福寿町間島6丁目104番地

TEL 058(392)2431 FAX 058(392)1284

URL: <http://www.nbr.co.jp/>

vivo



ミニブタ特集号

-その1-

今月号から7月号までの3号に渡り、NBRのミニブタの歴史から、最近の試験の傾向まで、Q&Aにてお答えします。

1、NBRがミニブタ試験に力を入れているのは何故ですか？

私たちは動物実験の役割は人への外挿性を究めることと理解しています。その点でミニブタは皮膚、消化管、心臓などで人を外挿しやすい組織や器官を有しているからです。

2、1年間にどの位のミニブタ試験を実施実施していますか？

昨年度は29試験実施しました。ミニブタ試験は1995年から実施し、過去15年間で132試験の試験を実施しています。

3、1年間にどの位のミニブタを使用していますか？

昨年度は167頭のミニブタを購入し、薬理および安全性試験に供しました。

4、NBRが使用しているミニブタの系統はなんですか？

NIBSとGöttingenの2種類です。前者は国産、後者はデンマーク産です。

試験の目的に応じて使い分けをしています。

5、ミニブタの飼育は難しいですか？

ミニブタはストレスに弱く、飼育にはハードおよびソフト面できめ細かい対応が必要です。

また、イヌが常在菌として保有しているBordetella菌はミニブタに感染するなど、ミニブタと他の実験動物を同じ施設で飼育すると有害な菌やウイルスに感染する危険性があります。

こうした理由から当社はミニブタ専用の試験施設を設け、各種試験を実施しています。

お知らせ：2010年6月16日(水)～18日(金)の3日間沖縄県(沖縄コンベンションセンター)で行われます、

第37回日本トキシコロジー学会に於いてポスター発表および企業ブース展示いたします。

演題番号:P162

演題名：ミニブタを用いた各種外用剤の皮膚刺激性試験(その6) —NIBS系とGöttingen系の系統差間の比較—

発表者：山田恭史 日時：2010年6月18日(金) コアタイム13:15～14:30

佐部利 典彦のアートギャラリー(32)

岐阜県出身(1969～)

『心の絆 - その32-』

会社の近くにあるガソリンスタンドがこの4月末で店を閉じました。セルフ店の安価攻勢と新規の設備投資についていけず、46年間も続いた営業に幕を下ろしました。従業員は主人と奥さんの二人。典型的な家族経営でした。「いらっしゃい！」の掛け声に始まる給油。給油中にはフロントやリアガラスの清掃を。「室内はこれで拭いてください！」と絞ったタオルが。「ゴミはありませんか！」…その間に天気の話や世間話のやりとりが。10分足らずの短い時間の中に人と人の触れ合いがあり、無意識に心が和み、時には元気をもらうこともありました。今、日本はデフレ経済が進み、何でも安いものが一番です。大型スーパーや量販店の普及に反比例して町並みからは個人商店がどんどん消えています。対面販売が消え、そこにあった会話とそこから生まれた笑いが消えています。私たちは物だけを買って満足しているのでしょうか。私には目には見えない大切なものを買って忘れておられるように思えるのです。



作品解説 タイトル 虹色レインボー

障子紙に水性絵具 15m×11m

岐阜シティータワー43でキャンブを張って、寝泊りしながら制作した作品です。

このビルに虹をかけようと考え、噴霧器を使って制作しました。

私の心にも虹が架かりました。